

全国

ぜんこく  
しぎかいじゅんぽう平成23年 6 月 5 日 第1798号  
毎月3回5の日に発行  
(購読料は会費に含む) 定価 1部20円

発行 全国市議会議長会

〒102-0093  
東京都千代田区平河町2-4-2  
代表 TEL 03(3262)5234  
旬報 TEL 03(3262)2309  
発行人 大竹 邦実

http://www.si-gichokai.jp

## 市議会旬報

義援金目録贈呈のよう

五本幸正・本会会長  
(富山市)

5月25日に開かれた東北市議会議長会の定期総会では、

## 本会から義援金

## 東日本大震災で東北議長会

東日本大震災で被災した青森県、岩手県、宮城県、福島県の各議長会に対し、本会から義援金の目録が贈呈された。

当日は本会を代表して五本幸正会長（富山市議長）が出席し、東北議長会の秋山恭寛・青森支部長（八戸市議長）、佐藤栄一・岩手県支部

長（盛岡市議長）、野田謙・宮城県支部長（仙台市議長）、大越明夫・福島県支部長（福島市議長）に対し、それぞれ義援金の目録が手渡された。

今回、贈呈された義援金は、本会が設置した支援本部で取りまとめたもの。3月から募集を開始し、5月20日で締め切った結果、総額で1億806万9132円が寄せられた。義援金は、このほか茨城県、千葉県にも贈呈される。

6月5日現在の都市数  
809都市

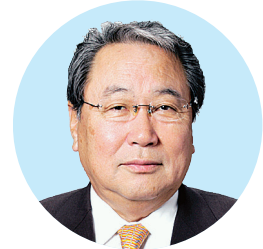
|      |      |
|------|------|
| うち   |      |
| 指定都市 | 19市  |
| 中核市  | 41市  |
| 特例市  | 40市  |
| 一般市  | 686市 |
| 特別区  | 23区  |

東北市議会議長会が5月25日、北海道・中国・四国の3市議会議長会が5月26日、定期総会を開催。会長ら新役員を選任したほか、平成22年度

決算や23年度予算を決定した。また、要望議案についても審議し、原案のとおり決定した。2面に議案を掲載。

4議長会の会長には、▽北

海道▽三上洋右・札幌市議長▽東北▽野田謙・仙台市議長▽中国▽山代裕始・出雲市議長▽四国▽岡崎豊・高知市議長――が就任した。

野田謙・東北議長会  
会長（仙台市）三上洋右・北海道議長会  
会長（札幌市）

## 北海道・東北・中国・四国

## 4議長会が総会

## 会長ら新役員を選任

岡崎豊・四国議長会  
会長（高知市）山代裕始・中国議長会  
会長（出雲市）中川秀美・病院協会長  
(徳島市)

## 病院協が総会

満場一致で決議採択  
全国自治体病院経営都市議  
会協議会（会長▽中川秀美・  
徳島市議長）は5月30日、第

39回定期総会を開き決議を採択した。【2面に関連記事】

当日は来賓として、細田博之・自治体病院議員連盟会長（衆議院議員）が出席し、祝辞をいただいたほか、西川一誠・全国自治体病院開設者協議会会長からメッセージが寄せられ、総会に花を添えた。

また、高倉信行・総務省大臣官房審議官（公営企業担当）が「公立病院について」と題し、説明した。

## 議員年金廃止に

## 改正地共法が成立

5月20日の参議院本会議で改正地方公務員等共済組合法

が可決し、成立した。これにより地方議会議員の年金制度は6月1日から廃止されることとなった。

また、審議した衆議院と参議院の両総務委員会では付帯決議を行い、制度廃止から1年程度を目途に、新たな地方議会議員の年金制度について検討することなどを政府に求めた。

## 金石市の選挙延期

東日本大震災で

総務省は5月27日、東日本大震災による被災自治体の選挙を延期する特例法に基づき、新たに4市町の選挙を延期することとした。新たな選挙日は特例法の定めに従い、9月22日までの範囲内で設定されることとなる。

今回の決定で延期されることとなった市は岩手県金石市。今回の決定以降も選挙の実施が困難な自治体については、延期対象に追加される可能性がある。

これまでに指定された自治体は下表のとおり。

## 指定団体（統一地方選対象団体）一覧

| 番号 | 県   | 市町村名  | 統一選対象となった任期満了期日 |       | 特例選挙期日 |
|----|-----|-------|-----------------|-------|--------|
|    |     |       | 長               | 議員    |        |
| 1  | 岩手県 | 盛岡市   |                 | 5月1日  | 8月28日  |
| 2  | 岩手県 | 久慈市   |                 | 4月29日 |        |
| 3  | 岩手県 | 陸前高田市 |                 | 4月29日 |        |
| 4  | 岩手県 | 二戸市   |                 | 4月30日 |        |
| 5  | 岩手県 | 雫石町   |                 | 5月8日  |        |
| 6  | 岩手県 | 滝沢村   |                 | 4月30日 |        |
| 7  | 岩手県 | 大槌町   | 5月7日            |       |        |
| 8  | 岩手県 | 山田町   |                 | 4月29日 |        |
| 9  | 岩手県 | 田野畑村  |                 | 4月30日 |        |
| 10 | 岩手県 | 普代村   | 4月30日           | 4月30日 |        |
| 11 | 岩手県 | 野田村   |                 | 4月29日 |        |
| 12 | 岩手県 | 洋野町   |                 | 4月30日 |        |
| 13 | 宮城県 | 仙台市   |                 | 5月1日  |        |
| 14 | 宮城県 | 塩竈市   | 4月30日           | 4月30日 |        |
| 15 | 宮城県 | 白石市   |                 | 4月29日 |        |
| 16 | 宮城県 | 多賀城市  |                 | 4月30日 |        |
| 17 | 宮城県 | 村田町   | 5月24日           |       |        |
| 18 | 宮城県 | 川崎町   | 5月8日            |       |        |
| 19 | 宮城県 | 亘理町   |                 | 4月30日 |        |
| 20 | 宮城県 | 山元町   |                 | 4月30日 |        |
| 21 | 宮城県 | 松島町   | 4月21日           |       |        |
| 22 | 宮城県 | 七ヶ浜町  | 4月29日           | 4月29日 |        |
| 23 | 宮城県 | 利府町   |                 | 4月29日 |        |
| 24 | 宮城県 | 富谷町   |                 | 4月29日 |        |
| 25 | 宮城県 | 大衡村   |                 | 4月29日 |        |
| 26 | 宮城県 | 色麻町   | 4月29日           |       |        |
| 27 | 宮城県 | 女川町   |                 | 4月29日 |        |
| 28 | 福島県 | 福島市   |                 | 4月30日 | 7月31日  |
| 29 | 福島県 | 会津若松市 | 4月26日           | 4月29日 | 8月7日   |
| 30 | 福島県 | 郡山市   |                 | 4月30日 | 9月4日   |
| 31 | 福島県 | 白河市   |                 | 4月30日 | 7月10日  |
| 32 | 福島県 | 須賀川市  |                 | 4月29日 | 9月4日   |
| 33 | 福島県 | 相馬市   |                 | 4月29日 |        |
| 34 | 福島県 | 国見町   |                 | 4月29日 | 6月19日  |
| 35 | 福島県 | 川俣町   |                 | 4月29日 |        |
| 36 | 福島県 | 鏡石町   |                 | 4月29日 | 9月4日   |
| 37 | 福島県 | 檜枝岐村  | 4月30日           | 4月30日 | 5月29日  |
| 38 | 福島県 | 磐梯町   | 4月30日           | 4月30日 | 6月26日  |
| 39 | 福島県 | 猪苗代町  | 4月26日           |       | 6月26日  |
| 40 | 福島県 | 会津坂下町 | 4月29日           |       | 6月26日  |
| 41 | 福島県 | 柳津町   | 4月29日           |       | 6月26日  |
| 42 | 福島県 | 昭和村   |                 | 4月29日 | 6月26日  |
| 43 | 福島県 | 西郷村   |                 | 4月29日 | 8月28日  |
| 44 | 福島県 | 広野町   |                 | 4月29日 |        |
| 45 | 福島県 | 川内村   |                 | 4月29日 |        |
| 46 | 福島県 | 双葉町   |                 | 4月29日 |        |
| 47 | 福島県 | 葛尾村   |                 | 4月29日 |        |
| 48 | 福島県 | 新地町   |                 | 4月29日 |        |
| 49 | 茨城県 | 水戸市   | 4月26日           | 4月30日 | 5月29日  |

## 病院協総会で採択した決議

## 震災関係復旧求める

5月30日に開かれた全国自治体病院経営都市議会協議会第39回定期総会では、平成22年度決算について江原和明・監事（宝塚市議長）から監査結果の報告があったのち、決算書のとおり認定。23年度事業計画、23年度予算についても協議した結果、原案のとおり

り決定した。また、林干城・相談役（松江市議長）から提案説明のあった決議についても、満場一致で採択した。

## 【一面に関連記事】

決議に掲げ実現を目指す項目は7つに及ぶ。特に今回の決議では、3月11日に発生した東日本大震災による被害が

深刻な状況を踏まえ、被災した自治体病院施設の復旧事業に係る国庫補助率を大幅に引き上げるよう求めている。合わせて、実質的に自治体負担が生じないよう、万全の地方



決議を提案する林干城・相談役（松江市）

交付税措置を講じることも求めている。

このほか決議では、地域医療の中核を担う自治体病院の経営安定に向け、特に過疎地・産科、小児科、救急医療に対し、交付税措置等の拡充強化などを求めている。

採択された決議は、掲げられた内容の実現を図るため、各加盟市がそれぞれ地元選出の国会議員に対し、要望することとした。

## 各部会提出議案

## 北海道部会

- ▽北海道新幹線の整備促進
- ▽北方領土問題の早期解決等
- ▽環太平洋パートナーシップ（TPP）協定交渉への参加反対

## 東北部会

- ▽道路交通網の整備促進
- ▽地域医療体制の充実強化
- ▽水田農業政策の確立と農業・農村の活性化策

## 中国部会

- ▽原子力発電所の事故に係る抜本的な計画等の見直し
- ▽社会インフラの経年劣化対策に係る財政支援
- ▽身近な地域で出産できる助産システムの実現と妊婦健診、出産費用の公費負担による無料化

## 四国部会

- ▽地震防災対策の推進
- ▽地域農業の多様な担い手の育成
- ▽自治体病院の医師確保対策及び財政支援措置の充実強化

## 議会人事

▼議長

▽笠間 柴沼 広(1・5)

▽石巻 阿部政昭(3・7)

▽稲沢 坂上国弘(3・25)

▽飛騨 森下真次(3・25)

▽洲本 奥井正展(3・25)

▽伊賀 安本美栄子(4・11)

▽香芝 川田 裕(4・14)

▽赤穂 藤本敏弘(4・15)

▽東金 早野 誠(4・20)

▽真庭 河部辰夫(4・20)

▽坂戸 小川達夫(4・21)

▽赤磐 小田百合子(4・25)

▽富士見

▽美作 関野兼太郎(4・26)

▽丸亀 道上政男(4・26)

▽鹿角 横田隼人(4・26)

▽羽咋 高杉正美(4・28)

▽行方 藤井敬一(4・28)

▽夕張 貝塚順一(4・28)

▽さいたま 高橋一太(5・1)

▽さいたま

▽清須 中山欽哉(5・2)

▽生駒 成田義之(5・2)

▽朝倉 井上充生(5・2)

▽杵築 手嶋源五(5・2)

▽宇佐 河野有二郎(5・2)

▽宇佐 衛藤博幸(5・2)

▽太宰府 大田勝義(5・6)

▽鉦路 黒木 満(5・9)

▽滝川 水口典一(5・9)

▽砂川 東 英男(5・9)

▽大和 木村賢一(5・9)

▽沼田 大島崇行(5・9)

▽大府 上西正雄(5・9)

▽多治見 若尾靖男(5・9)

▽関 長屋和伸(5・9)

▽新見 羽場純三(5・9)

▽東かがわ

▽歌志内 田中貞男(5・9)

▽坂井 山崎数彦(5・10)

▽塩尻 広瀬潤一(5・10)

▽狭山 永田公由(5・10)

▽鶴ヶ島 栗原 武(5・10)

▽味岡 弘(5・10)

▽羽島 中平富宏(5・10)

▽宿毛 豊 一馬(5・10)

▽嘉麻 井上賢治(5・10)

▽八女 中村博満(5・10)

▽大川 関岡俊実(5・10)

▽大野城 池永幸生(5・10)

▽合志 門田国光(5・10)

▽串間 宮迫泰倫(5・10)

▽垂水 水江一弘(5・11)

▽室蘭 久保田久栄(5・11)

▽小千谷 久保田久栄(5・11)

▽小松 円地仁志(5・11)

▽大町 大庭富義(5・11)

▽府中(東京)

▽東松山 村木 茂(5・11)

▽吉田英三郎(5・11)

▽田中克美(5・11)

▽深津忠男(5・11)

▽車戸明良(5・11)

▽中河 昭(5・11)

▽井上日吉(5・11)

▽工藤行義(5・11)

▽奥 泰司(5・11)

▽御所

▽喜多方 小野栄利(5・11)

▽十日町 佐藤昭大(5・12)

▽茅野 小堀清司(5・12)

▽鹿嶋 坂本仙一(5・12)

▽みどり 金子 實(5・12)

▽山武 萩原善和(5・12)

▽瀬戸 水野勝美(5・12)

▽大垣 中村直巳(5・12)

▽美濃 石川まさと(5・12)

▽大和郡山 山口育男(5・12)

▽直方 西川健次(5・12)

▽延岡 友原春雄(5・12)

▽三笠 佐藤 勉(5・12)

▽伊達 谷津邦夫(5・13)

▽金沢 館市弘太(5・13)

▽輪島 上田 章(5・13)

▽飯田 大宮 正(5・13)

▽稲城 上澤義一(5・13)

▽綾瀬 田中繁夫(5・13)

▽富岡 増田淳一郎(5・13)

▽川越 市川廣計(5・13)

▽飯能 三上喜久蔵(5・13)

▽日高 大久保勝(5・13)

▽磐田 安藤重男(5・13)

▽笠間 小野泰弘(5・13)

▽副議長

▽海老澤勝(1・5)

▽四街道 斉藤耀一(2・28)

▽石巻 長倉利一(3・7)

▽西海 田口 昇(3・23)

▽稻沢 今井公平(3・25)

▽西条 楠 学(5・11)

▽春日 金堂清之(5・11)

▽多久 山本茂雄(5・11)

▽豊後大野

▽飛騨 木下忠男(3・25)

▽洲本 先田正一(3・25)

▽伊賀 空森栄幸(4・11)

▽東かがわ 楠田 敬(5・9)

▽歌志内 下山則義(5・10)

▽大船渡 斎藤 功(5・10)

▽坂井 高間正信(5・10)

▽塩尻 金田興一(5・10)

▽狭山 町田昌弘(5・10)

▽鶴ヶ島 山中基充(5・10)

▽伊豆の国 秋田 清(5・10)

▽赤磐 大鐘康敬(5・10)

▽庄原 杉浦司美(5・10)

▽諫早 宮川茂治(5・10)

▽富士見 吉田耕造(5・10)

▽南房総 野々下昌文(5・10)

▽美作 米澤善吾(5・10)

▽丸亀 田中日本明(5・10)

▽静岡 川口誠二(5・10)

▽鹿角 福永 寛(5・10)

▽羽咋 福山保廣(5・10)

▽行方 島田敏春(5・10)

▽夕張 角田浩晃(5・1)

▽さいたま

▽清須 浅井泰三(5・2)

▽生駒 塩見牧子(5・2)

▽朝倉 梶原康嗣(5・2)

▽杵築 岩尾育郎(5・2)

▽宇佐 斉藤文博(5・2)

▽宇佐 橋本 健(5・6)

▽太宰府 月田光明(5・9)

▽鉦路 田村 勇(5・9)

▽滝川 飯澤明彦(5・9)

▽砂川 中坪宏明(5・9)

▽大和 平田純治(5・9)

▽沼田 宇敷和也(5・9)

▽大府 鈴置英昭(5・9)

▽多治見 各務幸次(5・9)

▽飛騨 木下忠男(3・25)

▽洲本 先田正一(3・25)

▽伊賀 空森栄幸(4・11)

▽東かがわ 楠田 敬(5・9)

▽歌志内 下山則義(5・10)

▽大船渡 斎藤 功(5・10)

▽坂井 高間正信(5・10)

▽塩尻 金田興一(5・10)

▽狭山 町田昌弘(5・10)

▽鶴ヶ島 山中基充(5・10)

▽伊豆の国 秋田 清(5・10)

▽赤磐 大鐘康敬(5・10)

▽庄原 杉浦司美(5・10)

▽諫早 宮川茂治(5・10)

▽富士見 吉田耕造(5・10)

▽南房総 野々下昌文(5・10)

▽美作 米澤善吾(5・10)

▽丸亀 田中日本明(5・10)

▽静岡 川口誠二(5・10)

▽鹿角 福永 寛(5・10)

▽羽咋 福山保廣(5・10)

▽行方 島田敏春(5・10)

▽夕張 角田浩晃(5・1)

▽さいたま

▽清須 浅井泰三(5・2)

▽生駒 塩見牧子(5・2)

▽朝倉 梶原康嗣(5・2)

▽杵築 岩尾育郎(5・2)

▽宇佐 斉藤文博(5・2)

▽宇佐 橋本 健(5・6)

▽太宰府 月田光明(5・9)

▽鉦路 田村 勇(5・9)

▽滝川 飯澤明彦(5・9)

▽砂川 中坪宏明(5・9)

▽大和 平田純治(5・9)

▽沼田 宇敷和也(5・9)

▽大府 鈴置英昭(5・9)

▽多治見 各務幸次(5・9)

▽飛騨 木下忠男(3・25)

▽洲本 先田正一(3・25)

▽伊賀 空森栄幸(4・11)

▽東かがわ 楠田 敬(5・9)

▽歌志内 下山則義(5・10)

▽大船渡 斎藤 功(5・10)

▽坂井 高間正信(5・10)

▽塩尻 金田興一(5・10)

▽狭山 町田昌弘(5・10)

▽鶴ヶ島 山中基充(5・10)

▽伊豆の国 秋田 清(5・10)

▽赤磐 大鐘康敬(5・10)

▽庄原 杉浦司美(5・10)

▽諫早 宮川茂治(5・10)

▽富士見 吉田耕造(5・10)

▽南房総 野々下昌文(5・10)

▽美作 米澤善吾(5・10)

▽丸亀 田中日本明(5・10)

▽静岡 川口誠二(5・10)

▽鹿角 福永 寛(5・10)

▽羽咋 福山保廣(5・10)

▽行方 島田敏春(5・10)

▽夕張 角田浩晃(5・1)

▽さいたま

▽清須 浅井泰三(5・2)

▽生駒 塩見牧子(5・2)

▽朝倉 梶原康嗣(5・2)

▽杵築 岩尾育郎(5・2)

▽宇佐 斉藤文博(5・2)

▽宇佐 橋本 健(5・6)

▽太宰府 月田光明(5・9)

▽鉦路 田村 勇(5・9)

▽滝川 飯澤明彦(5・9)

▽砂川 中坪宏明(5・9)

▽大和 平田純治(5・9)

▽沼田 宇敷和也(5・9)

▽大府 鈴置英昭(5・9)

▽多治見 各務幸次(5・9)

▽飛騨 木下忠男(3・25)

▽洲本 先田正一(3・25)

▽伊賀 空森栄幸(4・11)

▽東かがわ 楠田 敬(5・9)

▽歌志内 下山則義(5・10)

▽大船渡 斎藤 功(5・10)

▽坂井 高間正信(5・10)

▽塩尻 金田興一(5・10)

▽狭山 町田昌弘(5・10)

▽喜多方 伊藤憲義(5・11)

▽鹿嶋 山口和男(5・12)

▽茅野 伊藤眞智子(5・12)

▽みどり 椎名祐司(5・12)

▽山武 実倉弘康(5・12)

▽瀬戸 東 伸二(5・12)

▽豊川 大野良彦(5・12)

▽大垣 川上孝浩(5・12)

▽美濃 日比野豊(5・12)

▽大和郡山

▽直方 西川貴雄(5・12)

▽延岡 中西省三(5・12)

▽三笠 高木益夫(5・12)

▽富良野 齊藤 且(5・13)

▽富良野

▽伊達 横山久仁雄(5・13)

▽金沢 寺島 徹(5・13)

▽輪島 黒沢和規(5・13)

▽飯田 森 正樹(5・13)

▽飯田 村松まり子(5・13)

▽佐脇ひろし(5・13)

▽綱嶋洋一(5・13)

▽綾瀬 宮沢展彦(5・13)

▽富岡 小ノ澤哲也(5・13)

▽川越 石田牙子(5・13)

▽飯能 島野和夫(5・13)

▽北本 山田一繁(5・13)

▽磐田 川村孝好(5・13)

▽小野 岡嶋正昭(5・11)

▽桜井 万波迪義(5・11)

▽御所 島田幸子(5・11)

▽西条 児玉千春(5・11)

▽春日 塚本良治(5・11)

▽多久 角田一彦(5・11)

▽豊後大野

# 政 市 ニ ュ ー ス



定期的に山間部集落を訪問し高齢者の安否を確認

## そこに市民がいる限り 安心して暮らせるよう

行政の光を

元気かい！集落応援プログラム——田辺市(和歌山県)

「日々の不便は承知」「先祖が残した家や山を守らねばならない」「この地域から出て行くつもりはない」「地域に1人でも生活している限り、少しでも光を当てて欲しい」これらの言葉は、和歌山県田辺市の山間部集落に住む住民の思いです。田辺市は平成17年5月1日、旧田辺市、旧

龍神村、旧中辺路町、旧大塔村、旧本宮町の5市町村が合併し誕生した都市。市の総面積1026平方キロのうち森林面積が約9割を占めているため、田辺市では山間部集落に住む市民への支援に対し、心を配っています。

田辺市が取り組む「元気かい！集落応援プログラム」は、山間部集落に住む市民に対し、行政の責務として応える回答策の1つ。さらに山間部集落に住む市民は高齢化が進んでおり、特に行政の支援が不可欠な状況にあります。

過疎地域・振興山村の自治会数を旧市町村区域別にみた場合、田辺で2地区、龍神で21地区、中辺路で34地区、大塔で30地区、本宮で47地区。うち高齢化率が50%以上70%以下の地区は、龍神で3、中辺路で9、大塔で7、本宮で17。70%を超えている地区も全体で13に及んでいます。



田辺市山間部には清らかな谷水が流れこの谷水を集落の住民は利用している

## 行政局と森林局が連携

冒頭の言葉は、田辺市が19年5月から7月にかけて実施した、集落の状況についての聞き取り調査で寄せられた住民の心情。山間部集落の住民は、▽飲料水(谷水)の維持管理▽イノシシ・シカ・サル・カモシカなどによる獣害▽耕作放棄地や生活道などの維持管理——などの課題に悩まされています。

そこで田辺市が取り組む「元気かい！集落応援プログラム」では行政局のみならず森林局と手を携え、情報を共有するとともに連携して活動しています。行政局は、旧4町村の区分に設置された田辺市の出先機関。応援プログラムにおいては、市職員や集落支援員が集落へ定期的に訪問し、安否の確認や地域の情報



収集などを実施しています。田辺市の取り組みで画期的な点は、行政局のみならず森林局も連携して施策に関わっているところ。応援プログラムを効果的に推進するため、20年4月には森林局山村林業課を大塔行政局へ移転させるとともに、課内に「山村振興係」「林業土木係」を設置する機構改革を実施しました。森林局では過疎集落支援事業として住環境の整備を図るため、飲料水の供給などに取り組みんでいます。山間部集落に住む住民は上水道が利用できません。上水道の敷設が困難なためです。そこで山間部集落の住民は谷からホースで水を引き、生活用水として利用する住環境を余儀なくされています。森林局では少しでも住民の生活を支援するため、給水施設のサポートなどに心を配っています。

「そこに住む市民がいる限り、市民が安心して暮らせるよう行政の光を当てて行かなければならない」この言葉には、田辺市の真摯な思いが込められています。今後も、きめ細かい支援を提供していくことでしよう。【本紙取材】